

90国民春闘をふり返って

愛労連事務局長 阿部 精六

全労連・愛労連が結成されて、はじめての春闘として組織内外からの期待と注目がよせられるなか、準備段階を含めて7カ月に及ぶ粘り強いたたかいを展開してきました。ここに若干の特徴を述べさせて戴き、引き続き「月報」読者の方々の御意見を御聞かせ下されば幸いです。

愛労連は県内のたたかう労働組合のみなさんと「春闘共闘委員会」を結成し、要求の組織、闘争の性格と展開、妥結内容などを通じて「連合」との、際だった違いを労働者・県民に示すことができました。特に妥結内容の集計で、労働省(資本金20億円・従業員1000人以上)、愛知県(427社)、日経連(規模別)、連合のどの集計よりも、額・率ともに上回ったことは、民間中小組合を結集主体とする愛労連・春闘共闘の奮闘ぶりを示す結果となりました。

しかし、労働者・国民の切実な要求からみれば、生活向上や労働環境の改善とは程遠く、絶好のチャンスを生かし切れず、不十分さを残すこととなりました。これは愛労連や春闘共闘に結集する組合員の春闘への自覚的参加や結集力の強化、共同闘争の拡大と定着など地域春闘や産業別統一闘争の強化を軸に、ストラキを含む多様な闘争形態を駆使し、新たな運動をつくりだしつつ「管理春闘打破」の第一歩を踏み出したとはいえ、政府・独占の「春闘つぶし」に同調する連合の労使協調・自粛春闘を打ち破るだけの社会的力量が不足しているところに主要な原因があります。

いま、愛労連は、90国民春闘の貴重な教訓を踏まえて、90春闘以上に、たたかう労働者・労働組合の「並み」を揃えた取り組みの強化と同時に、大企業・連合職場や未組織労働者をはじめ、全県民的な影響力を発揮できる「91国民春闘の構築」にむけ、準備を早めるための討論を行っているところです。

(あべ せいろく・当研究所会員)

愛知90国民春闘回答情報

NO. 15 (最終号)
1990.6.26(火)

発行：愛知90国民春闘共闘委員会

事務局 愛労連内
名古屋市中区新栄1-22-18
TEL 052-262-1377 FAX 052-262-2732
発行責任者：阿部精六



<90春闘最終報告>

241組合回答平均
15,202円(6.38%)

237組合妥結平均
15,216円(6.37%)

県労働部調査、労働省調査(鑑)

日経連調査、連合

おべての
平均妥結平均を上まわる!

(1) 愛知県国民春闘共闘委員会加盟の90春闘の回答及び妥結の最終状況は次の通りです(6月25日現在)

要求	249組合		
回答	241組合	回答組合平均	15,202円(6.38%)
妥結	237組合	妥結組合平均	15,216円(6.37%)

(2) 愛知県労働部調査による愛知県の90春闘妥結状況は、次の通り(6月26日発表)

※調査対象は、労働組合のある427社

全産業平均	12,709円(5.8%)		
製造	12,575円(5.8%)	建設	17,121円(6.8%)
電気・ガス・水道	14,741円(5.9%)	運輸・通信	11,034円(4.8%)
卸売・小売・飲食	14,025円(6.6%)	金融・保険	16,107円(6.5%)
サービス	13,369円(6.0%)		

(3) 労働省調査による全国大企業の妥結状況は、次の通り(6月25日発表)

※調査対象は資本金20億円以上、従業員1,000人以上で労働組合のある290社

全産業平均 15,026円(5.94%)

業種別平均は、別記参照

(4) 日経連調査による日経連加盟企業の妥結状況は、次の通り。

大手企業妥結加重平均

14,897円(5.91%)

中小企業加重平均(従業員500人以下、668社)

12,368円(5.79%)

(5) 愛知県春闘共闘委員会加盟組合の妥結平均は、金額に於いても率に於いても、愛知県調査妥結平均、全国調査妥結平均、日経連調査妥結平均のいずれよりも大きく上回りました。

ストライキや全員抗議集会、相互激励、各地域での官民交流集会、ねばりづよい交渉の連続など“職場や地域のがんばり”が、成果の背景です。夏から秋季年末闘争、さらには91春闘をはじめとする91年度運動に生かし合いましょう!

研究所資料コーナー

今回は、研究所に定期に入っている雑誌類の紹介をします。会員の方は、貸出はできませんが、閲覧・コピー（実費）はできます。利用される方は、事前に連絡してからお出かけ下さい。

雑誌 労働運動、賃金と社会保障、日本労働協会雑誌、学習の友、労働者教育、青年運動、経済、エコノミスト、科学と思想、日本の科学者、世界、前衛、世界政治、赤旗評論判、文化評論、住民と自治、アジア・アフリカ研究、今日のソ連邦、医療労働、運輸一般、自治労通信、自治体労働運動、金属機械労働資料、労農のなかま、れんごう、れんごう政策資料、トヨタ労連、週間労働ニュース、日経連タイムズ、労務事情など

友好研究所

労働総研ニュース、東海自治体問題研究所所報、人権問題研究所会報、大原社会問題研究所雑誌、北海道経済（北海道経済研究所）、情報と資料（福岡県民主運動資料センター）、北九州経済研究会ニュース、建設政策（建設政策研究所）、神奈川総研所報など

官庁統計資料

愛知県統計年鑑、あいちの統計、労働あいち、労働資料情報、あいちの賃金・労働時間及び雇用の動き、最近の労働市場、生産動態統計月報、愛知の鉱工業動向、愛知県消費者物価指数など

労組・団体機関紙

全労連、愛労連、愛労連ニュース、全労連自治労愛知、なごや市職、名水労、じかたび、私大教連情報、日本共産党市政つうしん・県会議員団報、愛知国公、愛知民報、金属労働新聞、赤旗、赤旗日曜判、週間民社、職場新聞各種など

* 会員団体の機関紙・発行物など寄贈して下さいをお願いします。

第1回いのちと健康を守る学校大きく成功

愛労連とあいち職場の健康問題研究会のよびかけで実行委員会主催で7月7～8日にかけて第1回いのちと健康を守る学校が犬山市の犬山館で70名を超える規模で行われました。

1日目は、愛知労働問題研究所の伊藤欽次事務局長から「労基法・労安法の基本と労働者・労働組合」の講演があり、労基法・労安法の基本と労働者・労働組合のいのちと健康を守るたたかい姿勢と方向について、分かりやすく、熱意と情熱をもって話されました。続いて、名古屋過労死弁護団の水野幹男弁護士から、「過労死と労災補償」の講演がされ、労災補償の内容、補償闘争の意義、過労死の認定基準を事例もふまえながら、今後のとりくみの方向にも言及されました。

講演の後は、基調報告が3人の方から報告されました。最初は、全労働愛知支部から「労働基準監督官からみたいのちと健康を守るとりくみ」を労働行政の状況をふまえながら話されました。次に、名水労から「安全衛生委員会活動の実践から」の報告があり、「在職者死亡をゼロ」にする「いのちの番人」としての労働組合の健康問題のこれまでの取り組みが報告されました。最後に、全港湾の渡辺三千夫さんから「労災防止指導員として活動して」の報告が、自らの活動経験をふまえて、ユーモアと情熱をもって語られました。

食事の後の交流会は、伊藤さんと水野さんをそれぞれ囲んでの2つで行いましたが、いずれも10数名の参加で熱心に議論と交流を深めました。

2日目は、名大教授の山田信也先生から記念講演「健康で人間らしく生き働くこととは」と題して、話の内容を詳しく書かれた12ページのレジメとスライドをつかって、3時間つかって、労働者の健康問題とその背景、労働者の健康を守る運動と課題を意識する、運動の成果として法制度を活用し、その欠点を改める視点、仕事と健康の関連をとらえる視点、健康を全人格的にとらえる、人生の歩みを尊にする視点、今後の運動の視点、職場の安全衛生点検活動、健康相談活動をすすめるなどを具体例をふまえて熱意をもって話され、参加者に深い感動をあたえました。

講演の後の全体討論では、いのちと健康を守る取り組みが、全港湾、全動労、職自連（住軽金）、愛高教、名南労連、愛労連から積極的にだされ、交流と討論が深められました。最後に、参加者には、修了書がわたされ、今後の職場・地域のいのちと健康を守る運動の担い手として、頑張る決意をお互いのものにしました。

大変充実した中身の濃いすばらしい学校でした。ここでの成果をさらに今後の運動に大きく活かしていきたいと思います。

あいち職場の健康問題研究会2周年記念 健康で人間らしく生き働くための 愛知集会

と き：9月22日（土）午後2時～6時

ところ：愛知県産業貿易会館本館第4会議室（200名）

研究会だより

愛知労働問題研究所婦人労働部会

婦人労働部会のお知らせと参加のお願い

先の6月26日に婦人労働部会で愛労連の婦人協の方々をふくめ、「最近の婦人労働をめぐる状況と課題」の懇談会を9名の参加で行いました。

最初に、部会の責任者の渥美玲子弁護士から、「婦人労働部会活動計画案」と題して、部会の活動の到達点と今後の課題、権利手帳第1集「パート労働者」、そして、今後の部会の活動とその成果を権利手帳として続刊していくことが話されました。

この報告をふまえた懇談会では、愛労連の婦人協の結成と今度の運動の方向、労働省婦人少年室からみた最近の婦人労働行政、権利手帳「パート労働者」の普及状況と活用、最近の損保にみる婦人労働の特徴、母親大会・働く婦人の集会での特徴、自治体・保育職場での「行革」攻撃と婦人労働問題、育児休暇・看護休暇の要求と運動、長時間・過密労働をどう変えていくのかなどが積極的にだされ、活発に議論と交流が深められました。

最後に、今後婦人労働部会方向として、2つの部会を開くことを決めました。1つは、「コース別雇用・新人事制度と婦人労働」、もう1つは、「育児休業・看護休暇と婦人労働者」です。それぞれの部会で関心のある方は幅広い参加と部会の積み重ねによる成果で権利手帳の続刊にしていくことを確認しました。

そこで、次回の部会を次のように決めましたので、ぜひ、ご参加して下さいようお願いします。ご意見・ご質問あれば研究所までご連絡下さい。

1 コース別雇用制度の現状と問題点、たたかい

と き：7月19日（木）午後6時から8時30分

ところ：名古屋南部法律事務所（地下鉄伝馬町下車・1番出口すぐ横・南陽ビル3・4階・682-3211）（婦人会館は休館日）

内 容：最近のコース別雇用・管理の職場実態報告と討論

2 育児休業・看護休暇の現状と問題点（各職場の実状）

と き：7月31日（火）午後6時から8時30分

ところ：名古屋市婦人会館（地下鉄東別院下車東へ徒歩5分・331-5288）

内 容：各労組・職場の育休・看休の制度と活用実態の報告と討論

日本経済分析研究会のお知らせ

前回の研究会は、名大法学部の石田真さんに「国際比較をつうじてみた現代労使関係と法—先進資本主義国の動向を中心とした一つの素描—」のテーマでご報告いただきました。

石油ショック以降の先進資本主義国における「労使関係と法」の構造変動の中で、何故、日本では「法」の変動を伴うことなく、「労使関係」の変動が可能であったのか。この点を、国際比較をつうじて検討することが、報告の中心テーマでした。討論では、わが国とアメリカを中心に、労使関係の構造変動の中身、方向、その評価などについて、意見が出されました。

さて、次回第4回研究会を次のように開きます。関心のある方は、研究所に連絡の上ぜひご参加ください。

報告 岩下有司氏（中京大）「景気循環と設備投資」

日時 7月14日（土） 午後2時から5時まで

場所 中京大（八事） 研究棟小会議室

*なお、研究会後、懇親会を予定しております。

愛知労働問題研究所第2期プロジェクト研究

第4回「多数派形成」調査・研究会のお知らせ

研究所の第2期目の研究プロジェクトとして準備してきました「多数派形成」調査・研究会が関係する方々の協力をえて4月から正式発足し、第1回研究会を「多数派形成」調査・研究会活動内容とプラン（長沢）、文献研究—山本興治「転換期の労資関係」（猿田）で行いました。5月には山下さんの報告で第2回の研究会を文献研究・峯 学「第一組合」お茶の水書房、第1、2、3（総括）、5（日本ロール）、11章の内容で行いました。

6月は、木村さんの報告で「ルーカス・プラン」を行い、関心のある方など多数の参加で活発な議論を深めてきました。

今度4回目の研究会を以下ご案内しますので、参加を希望される方は、研究所までご連絡下さい。

と き 7月21日（土）午後1時30分から4時30分まで

ところ 愛知県青年会館（221-6001・納屋橋クラウン・ホテル南）

内 容 文献研究

河西宏祐「企業別組合の理論」（日本評論社）

報告者 浅生卯一（当研究所所員）

今後の多数派形成研究会の活動計画

*報告のあと討論を行います。

愛知労働問題研究所部会研究会

第4回経営分析研究会のお知らせ

経営分析研究会の準備会を昨年から行い、1月に山口孝（明治大学）先生による「働く者の経営分析教室」を大きく成功させ、それを受けて「経営分析研究会」を専門家の谷江武士（名城大）先生の協力えて3月から発足させました。3月の第1回目は谷江先生から「東京電力の経営分析」を報告してもらい、5月の第2回の研究会は新日鉄の辻井さんから「職場から経営分析をして」を行い、活発に討論を深めてきました。

7月の第3回の研究会は13名の参加で、アイシン精機の安藤さんから「トヨタ・グループ—アイシン精機を職場から分析をして—問題意識・到達点と今後の課題」を報告してもらいました。報告は、報告の位置づけ、経営分析の視点、トヨタ・グループの概要、トヨタ・グループの特徴、で詳細な資料・データに基づきながら、職場の最近の実態にも関連させて報告されました。報告後の討論も、労働分配率・内部留保の算定基準、退職金引当金・減価償却の算定をめぐる問題、経営分析の基礎資料と視点など谷江先生・富田（全国税）さんの助言を得ながら活発に議論されました。最後に、この部会の運営委員を4名選出し、次の研究会を以下の様に決めました。多数ご参加下さい。

第4回経営分析研究会

と き：8月8日（水）18:30～21:00

ところ：名古屋市婦人会館（地下鉄東別院下車東へ徒歩5分331-5288）

内 容：中小企業労働組合の経営分析—

全国一般愛知あいち支部日本アクリル分会

助言者： 谷江武士（名城大）・富田偉津男（全国税）

愛知労働問題研究所設立3周年

記念のつどい

と き：10月7日（日）午後1時30分～4時30分 5時から懇親会

ところ：愛知県青年会館（納屋橋クラウンホテル南 221・6001）

内 容：記念講演「激動の東ヨーロッパ—東ドイツで生活して—」

宮崎鎮雄（愛知大教授・当研究所理事長）（予定）

第4回 調査政策学校

と き 1990年 9月 1日(土) 午後1時から

9月 2日(日) 正午まで

ところ 蒲郡市・形原温泉 木村館 (TEL0533-57-2121)

<学校の内容>

開講のあいさつ 90年春闘をふりかえり、91年春闘を展望する

学 校 長 大 木 一 訓

(愛知労働問題研究所所長、日本福祉大教授)

第1講義 職場の点検活動からはじめよう

労働問題研究者 金 田 豊(予定)

(大月書店「労働問題実践シリーズ」第2巻編集責任者)

第2講義 「調査表」のつくりかた、まとめかた

愛知労働問題研究所副所長 長 沢 孝 司

(日本福祉大助教授)

第3講義 賃金闘争の要求づくりと調査

愛知労働問題研究所事務局長 伊 藤 欽 次

(大月「労働問題実践シリーズ」第3巻編集責任者)

参加費 15,000円(宿泊費 10,000円 受講料 5,000円)

申込み 愛知労働問題研究所(TEL 052-871-5603)

愛知県労働組合総連合(TEL 052-262-1377)

主 催 愛知労働問題研究所・愛知県労働組合総連合

連絡先: 〒456 名古屋市熱田区三本松8-2

愛知労働問題研究所・あいち職場の健康問題研究会

電話・FAX 052(871)5603

(月~金 午前10時から午後5時まで)

* 研究所は、専従体制ではないので、所員が交代で午前10時から午後5時まで常駐しています。都合で外出する時もありますので、連絡は、午前中の方が確実です。FAXは、電話番号と同じで24時間受信できます。